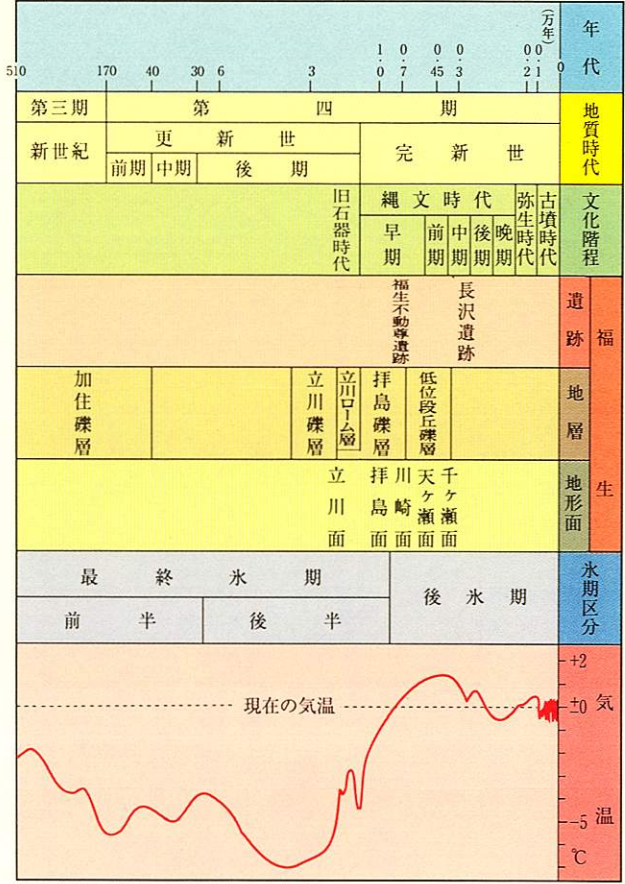


2 住みやすくなった環境

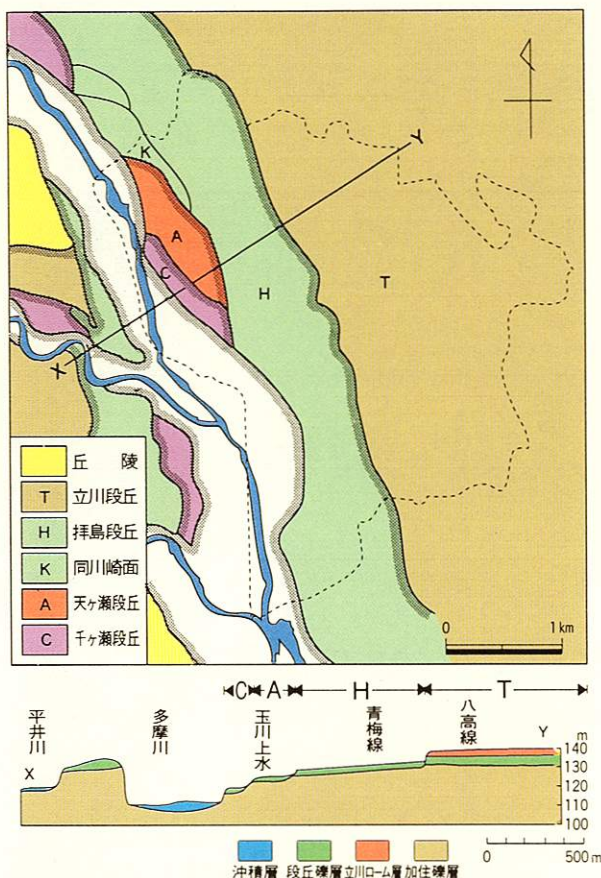
■ 旧石器時代の自然環境

いまから約八万年から一万二〇〇〇年前の後期旧石器時代は氷期にあたり、現在の平均気温より六、七度低かったといわれ、動植物の生態や地形などは、現在とは異なったものであった。



福生地域の地形・地質と自然史年表

このような環境のなかで、当時の日本列島に生えていた植物は、亜寒帯樹林が発達し、マツ、モミ、トウヒなどが育ち、またシダ類も繁っていた。動物は大陸からやってきたナウマンゾウ、オオツノシカ、ヘラジカなどの大型動物であった。当時の人びとは、そのような動物を追い、木の実を求めて移動しながら、生活を営んでいたと思われる。



福生市の段丘区分と地質断面図

■気候の温暖化

約一万二〇〇〇年ほど前、最後の氷期が終わり比較的温暖な時期になると、自然環境に変化がみられるようになった。日本列島は、東のナラ類で代表される落葉広葉樹林帯と、西のシイ、カシなどに象徴される照葉樹林帯しょうようじゅりんたいとに大きく二分され、豊かな森林におおわれるようになったのである。多摩地域にも、落葉広葉樹林が発達していたことがわかっている。また気候温暖化によって海面が上昇する縄文海進により、約六五〇〇年前の関東

地方の低地では、内陸深く海水の進入がみられ、現在の日本列島が形成されていった。

同時にナウマンゾウやオオツノシカなどの大型動物が姿を消していき、代わってシカやイノシシなどを主とする中型、小型の動物が数多く姿をみせるようになった。また、豊かな森林には食用となる植物が繁茂し、川や海岸は魚介類の宝庫となった。このような自然環境の変化は、人びとの生活様式を変えていった。そのことを象徴するのが土器の出現である。人びとが土器を使うようになった、旧



トチの実 縄文時代の人々はこういった木の
実を採集し、経済の基盤としていた。

縄文杉(鹿児島県屋久島) 正確なことは不明
だが縄文杉は樹齢約4000年を越えると推定さ
れており、当時の植生の一部を今に伝えてく
れている。

石器時代につづくこの時代を、縄文時代とよぶ。

縄文時代は、日本列島に土器が出現した約一万二〇〇〇年前から、稲作を中心とする弥生時代が誕生するまでの約一万年にわたる時代で、新石器時代である。縄文時代中期、約四〇〇〇年前以降から、自然環境はまた徐々に変化をみせるようになってきた。気候が冷涼化し、降水量がふえるにつれて、上流から押し流されてくる土壌が低湿地を拡大させたのである。人びとはこのような低湿地に進出するようになっていき、時代はやがて、稲作を中心とする農耕社会である弥生時代へと移っていったのである。

■恵まれた福生の自然

多摩川は武蔵野台地の南の端を流れている。その左岸には南向きの河岸段丘が発達し、ハケとよばれる段丘には豊富な湧き水があつて、古代人にとっては格好な生活環境となっていた。福生市もこのような河岸段丘上にある。

多摩川流域の縄文時代の集落は、豊富な湧き水を利用するために、段丘の縁につくられたものが多かったようである。福生市の縄文時代の遺跡も、早期のものは立川段丘の上であり、中期以降のものは拝島段丘の上で発見されている。周辺の遺跡をみても、多摩川左岸の古代人の集落は、自然環境の変化と川の流れの変化により、上位段丘からしだいに多摩川に近い低地へと移っていったことがわかる。